

洋書輸入協会会報

VOL. 18

NO. 1

(通巻201号) 昭和59年1月

謹んで新春の
お慶びを申し上げます

昭和59年元旦



理事長 飯泉新吾

1973年10月の第4次中東戦争を契機とした第1次石油ショックからすでに10年、イラン政変に伴う1979年の第2次石油ショックから5年目を迎えて、世界経済は国際金融不安、貿易摩擦等の問題を抱えつつも、ようやく曙光を見い出すに至りました。

特に世界経済の要となっているアメリカ経済が回復の兆しを見せてきたことは、わが国の経済にとって景気の

先行きに明るさをもたらす材料となってゆくものと思われます。

最近の朝日新聞社のアンケート調査によっても、主要企業100社（製造業60社、非製造業40社）のトップ経営者の半数以上が「景気は回復した」と判断しており、8割が「景気はゆるやかに上昇している」と回答しております。

新年の挨拶 理事長 飯泉新吾… 1	「会報委」晩秋の越後路をゆく … 3	訃報…………… 4
新年の挨拶	会員紹介…………… 4	総代理店ご案内…………… 5
日本出版貿易㈱ 村山俊男…… 2	来日外人名簿…………… 4	広告…………… 6
理事会報告…………… 3	おしらせ…………… 4	

ただ、同時に大半の経営トップは、この景気の回復はアメリカの景気回復とそれに伴う輸出の増加がその背景であり、内需主導型になっていないことを指摘しております。また昨年度の実質経済成長率の政府見通し3.4%から予測すれば、本年度の見通しは「4%近くで昨年度より高い」と見ている経営者が多く、今年度には景気回復がもう一歩進むとの考えが大勢を占めております。

政府が昨年7月に景気の底入れ宣言をし、夏ごろを境にかなり順調な回復軌道に入っておりますが、同時に現在の景気回復が輸出主導の形となっているだけに、内需の拡大による本格的な景気浮揚が望まれます。

特に文教市場への依存度の高い洋書業界にとって、政府の行財政改革による昨年度からの国家予算実質マイナ

スシーリングが、助成金10%マイナスになって現われております。加えて、外資系企業の進出による市場への影響も徐々に高まっており、又、準備委員会を設置し討議を開始いたしました複写機の普及によるコピー問題など懸念すべき状況が山積しております。

かような厳しい環境を前にして、業界全体の利益の拡大に向け洋書輸入協会の社会的位置付けを固める対応を図っていかねばならないと考えております。そのためには会員の皆様の英知の結集が、本年最大の課題であり、この対応の成功が知識産業の担い手であるわれわれの存続、繁栄につながるものと確信しております。皆様のご健闘を祈念し新年のご挨拶といたします。

謹 奉 賀 新 年

村 山 俊 男

新年おめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

昨年の日本経済は低成長に終始したと云っても過言ではないと思います。「不景気だなあ」という感想もあります。併し日本の経済の成長が低かったと云う事実は、景気の変動と云う次元を超え、はるかに深刻な意味を持っているように思われ、それはわれわれがこれから闘っていかねばならない文明の問題を予言しているのでは、とも思われます。人間の欲望には限りがなく、その欲望にこたえるために、人間は技術を開発し、道具を発明する。こうして産業社会は、生産も消費もとめどもなく発展してきました。その加速度的な進行に歯止めをかけているのが、公害であり、原料の欠乏であり、またこんな状態がいつまでも続くはずはないという人間の意識でした。おそらく人間は利口ではありますが、十分に聡明ではないのでしょう。

一つ一つやることは大変合理的であり、知恵をしばって技術を進歩させるが、結果としてまた全体として、まことに不合理な社会を作りあげてしまいました。そんなつもりではなかったのに、管理社会が人間の人格をない

がしろにする。そんなはずではなかったのに環境を破壊する。意図に反して、絶えず消費者に欲求不満を起こさせて、商品を売りつける。合理的だと思ってはじめたことが結局は人間の目的に合わぬことになってしまうのです。

日本経済の低成長とは、われわれがこうした文明の根本的な問いに取組まねばならぬ時代がまさに来たことを告げているのではないのでしょうか。その問いには誰も即答は出来ませんが、ニヒルになることはなまけ者の証拠かもしれない。そんなことを考えているとき、私の大学時代のクラスメートの神奈川県知事の長州一二君がなにかに書いている次のようなすばらしい言葉を思い出しました。

「神よ、われらに与えたまえ、変えることの出来ないものを受け入れる冷静さと、変えるべきものについてそれを変える勇気と、この両者を識別することのできる知恵とを。」

(日本出版貿易株式会社代表取締役社長、理事)

理事会報告

11月28日(月)

(一) 雑誌輸送の問題

北尾精造氏から外国雑誌——主として米国——の輸送問題について報告があった。

(二) 雑誌通関の問題

相良廣明氏から外国雑誌の通関について提案があった。

(三) コピー問題

コピー問題の今後の取扱いについて討議し、なるべく早く委員会を開催することとなった。

12月13日(火)

(一) 11月分収支計算・予算対比表

事務局長の報告を承認した。

(二) 東京外郵便通関協議会

12月12日(月)に開催された幹事会で、税関から年末特別警戒実施への協力要請(12月5日から18日まで、覚せい剤、大麻、麻薬およびけん銃等の密輸入取締り強化。)および注意事項(課税品の輸入申告について。)のあったことが報告された。

「会報委」晩秋の越後路をゆく

毎年秋も深まる頃、会報委員会では編集旅行というのをやります。昭和44年以来つづけている年中行事で、残暑もまだ厳しい頃の編集会議が済んだ後「さて今年はどこに行きますかな?」というSさんの一言が口火となって、その年の計画が進行するわけです。時には夜行列車であまり眠れぬまま、早朝からレンタカーを駆って各地を廻り一泊、そして翌日も目一杯走り通して夜遅く帰京、(そして翌日は出勤!)というハードスケジュールをくむこともあります。今年は、あまり遠出をしないで、ということで、長岡から日本海沿岸を一まわり、というコースが選ばれました。

11月13日、日旺の朝の大宮駅を滑り出した上越新幹線「あさひ」は、あっという間に私達を越後平野に運びます。全く、ピュッフェでちょいとビールを飲んでいたら、もう雪をいただいた上越の山々が迫ってくるのですから、まさに「新幹線は魔法の鞭」、たとえ少々味気なくても、これを利用して得られる時間を有効に使うのが、現代の旅行術というものでしょうか(これは宮脇俊三さんの本

の受け売り)。

長岡の駅では、上越新幹線開通一周年を記念して、いろいろな催しものがくりひろげられ、駅前には、田中元首相を励ます会、だかの集団が、一寸目立つ制服で集まっています。われら9名の旅鳥は、それを横目に二台のカリーナに分乗。今回も平岩(アカデミア・ミュージック)、野村(三省堂)の両氏がハンドルを握ってくれました。

東京を発つ時は、ときには陽光のさす天気だったのに、上越の山々のトンネルをくぐると空は鉛色になり、そして長岡では雨。三条・燕に向って高速道路を突っばしる頃は電がフロントガラスを叩きます。「裏日本」という言葉が、いやでも頭に浮んでくる天候の変り方です。この拙稿が皆さまのお目にとまる頃には、もう、お古い話となっていることでは、新潟三区に出馬の意を秘めた野坂氏が、この日はやはり長岡に来ていて、この異常な天候に遭遇した。という記事が夕刊紙に出ておりました。

高速道路を下りれば、洋食器の街、燕。そこの展示場の見学もそこそこに、弥彦に向い、山の尾根を走る弥彦スカイラインから、雲たれこめる日本海を眺め、次は下界において、七浦シーサイドラインを、今日の宿、寺泊めざして南下します。折しも電を交えた雨が強風によって横なぐりに降る凄まじさに、ほうほうの態で予約した民宿にとびこみました。

夜は海の幸に溢れた御馳走と美酒に酔い痴れ、編集会議の方は少々おそまつになりました。ここで一寸お願いをしておきます。相変らず会報への外部からの寄稿が少いのです。以前は、編集委員が手分けして外部に原稿を依頼し、特別記事としておりましたが、予算節減のため減頁をして以来、それも中断したままになっています。紙面が固定化してきていることは、私達も気がついているのですが委員諸氏も皆忙しく、取材も思うにまかせません。どんなことでも結構ですから、紙面を若返らせるために皆様の寄稿をお待ちします。(CM 終り)。

翌日も天候はさして改まらず、出雲崎の良寛記念堂を訪ねたり、柏崎から、三階節で有名な米山のふもとまで足を伸ばしましたが、「米山さんから雲が出た——」の歌の文句の通り、雲にかくれてお山は見えず。ままよ、と長岡に引き返し、せめて、河井継之助に因む遺跡でも、と郷土館に行ってみれば、門は閉ざされ、「本日休館」の木札がぶらさがっている始末。どうも我々は新潟三区に歓迎されていないらしい、と、いささかひがみながら、大宮行新幹線の車中の人となりました。(K.S.)

会 員 紹 介

株式会社 名著普及会

東京都目黒区平町 1-16-6

☎(03)724-8031

昭和58年1月に創立十周年を迎えた。基本的名著の再評価と普及をモットーとする専門書の通販会社である。その名の通り、内外を問わず埋もれた文化遺産である名著を再度世に出して貢献しようという社長、小関氏の意欲により設立された。ダイレクトメールによる情報提供により販売する方法を取り入れたことは注目される。インド学・サンスクリット語関係を含む仏

教書を中心に宗教・哲学・国漢文・歴史・民俗・芸術・語学と幅広い分野の出版活動と共に、それぞれの安定した顧客層による販売で着実に地歩を固めている。洋書関係の取り扱いも年々その規模を拡大している様である。その方面の調査研究も順調に行なっている。益々その活動の輪を広げていくことにより、新しい時代の波を乗り越えていくことであろう。

来 日 外 人 名 簿

- 11月中旬 Mr. Albrecht von Hagen, Engineering Editor, Springer-Verlag, Berlin
- " Mr. Peter Shepherd, Marketing Director, Associated Book Publishers Ltd., London
- " Mr. William S. Hein, Jr., President, Wm. S. Hein & Co., Inc., Buffalo
- " Mr. John Gavin, Sales Manager, ELT & School Publications, Pergamon Press, Oxford
- " Mr. Roger Ward, Marketing Manager, George Allen & Unwin, Australia
- 11月下旬 Mr. Eric Baker, Export Manager, David & Charles Publishers, Newton Abbot
- " Mr. David Kelley, Field Sales Manager, Houghton Mifflin Co., Boston
- " Mr. Nak Young Choung, Vice President, Harper & Row, Scranton
- " Mr. Christian Rivallan, Attaché aux Direction Exportations, P.U.F./Editions du Seuil, Paris
- " Mr. William A. Snyder, International Marketing Director, Pergamon Press Ltd., Oxford

お し ら せ

電話番号の変更

株式会社 三善

総務課、経理課 (03)398-9161代

書籍課 (03)398-9163代

訃 報

丸善株式会社本の図書館長八木佐吉氏は、病氣加療中のところ、12月15日入院先の都立駒込病院で食道ガンのため逝去されました。

八木氏は大正5年入社以来丸善生活68年、その間各書籍部門で活躍、洋書管理部長、人事部長を歴任し、昭和40年9月丸善本の図書館長に就任、洋書顧客の拡大に貢献されました。著書に「書物往来」「洋書の周辺」「Bookman's Glossary」などのほか、協会会報にも多くの寄稿をされました。

酒を愛し、乗馬、植物が趣味の粹人でもありました。葬儀は12月20日世田谷区淨因寺でおこなわれました。享年80才、謹んで哀悼の意を表します。

丸善の洋書ご案内



ワイリー社

心理学百科事典／全4巻

ENCYCLOPEDIA OF PSYCHOLOGY

Raymond J. Corsini, Editor Bonnie D. Ozaki, Assistant Editor

Dedicated to Carl R. Rogers and B. F. Skinner

〈2月刊行予定〉 4 Volumes. 2,000 p. 特価（'84年4月15日まで）予約セット概価 ¥50,880
（ " 以降） セット概価 ¥63,840

約2,000項目（専門語1,500項目、心理学者人名500項目）がConsulting Editors 16名、Associate Editors 15名、Foreign Editors 21名の下に集まった世界の学者によって執筆されます。

〈特長〉

1. 基本的情報の収載：索引には、主題・人名に関する件名を10,000件収録／従来に見られない規模の書誌（15,000）を収載。
 2. 内容の系統的叙述：人名以外の1,500の項目は、次の11分野の体系に従って執筆される——応用心理学・臨床心理学・認知心理学・発達心理学・教育心理学・測定・人格・生理学的心理学・社会心理学・理論心理学・海外での心理学研究。
 3. テキストとして利用できる内容
- 以上の特長を持ち、心理学者には勿論のこと、精神病学、カウンセラー、ソーシャルワーカー、社会学者、人類学者、医師、法律家などに広くおすすめてできる百科事典です。

(Wiley, USA)



ロングマン社

心理学・精神医学用語辞典

LONGMAN DICTIONARY OF PSYCHOLOGY AND PSYCHIATRY

By Walter D. Glanze

〈2月発売予定〉 1983. 800 p. 24.6×18.9 cm. (ISBN 0-582-28257-8) 定価 ¥10,000

人間の正常・異常な行為を扱う学としての心理学・精神医学の現在使用されている用語を定義する初めてのコンパクトな辞典。アメリカで使用されている語を中心に、イギリス・ヨーロッパの概念を含め20,500語を収録しています。

『現在使用されている語』ということは、現在の心理学・精神医学のテキストや著書著作の他に、過去20年間に関連各学会で発表された論文の用語を吟味し、語の選択・語義の定義をしたということを意味しています。百科辞典としてよりも、手頃な座右の辞典として各界に広くおすすめてできるものです。

(Longman, GBR)

日本総代理店

本社・日本橋店：〔〒103〕東京都中央区日本橋2-3-10 ☎(03)272-7211 振替東京7-5番



支店・営業所—東京(お茶の水・丸の内・内幸町・浜松町)・新潟・水戸・八王子・甲府・札幌・旭川・仙台・弘前・秋田・盛岡・山形・郡山・筑波・横浜・名古屋・静岡・岐阜・三重・金沢・富山・福井・京都・滋賀・大阪・奈良・神戸・姫路・岡山・松山・広島・山口・福岡(店屋町・天神)・長崎・鹿児島・沖縄/ニューヨーク・シンガポール

昭和59年1月 通巻第201号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル603号室 ☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎ 371-5329